

プラスチックについて 考えてみよう!!



1 身の回りの プラスチック製品

私たちの身の回りには、プラスチックでできたものがたくさんありますね。食品や飲み物の容器、レジ袋、文房具やスポーツ用品、テレビ、冷蔵庫などの家電もプラスチック製です。自動車や自転車、電車、飛行機の部品にもプラスチックが使われています。建築材料としても屋根や壁、床材、上下水道の配管、医療器具や農漁業の材料、電子部品など、プラスチックの用途は数え上げれば切りがありません。プラスチックは、なくてはならない便利な材料なのです。



2 海の生き物たちが危ない

ところが、そのプラスチックが、今、大きな問題となっています。

いらなくなったプラスチックの処分やリサイクルが追いつかなくなって世界中にあふれてしまい、環境中に流れ出て生物に影響を及ぼしています。一度放出されたプラスチックごみは容易には自然分解されず、多くが数百年以上もの間、残り続けます。魚、鳥、アザラシ、ウミガメなどが漁網に絡まったり、ポリ袋を餌と間違えて食べることで傷つけられたり死んだりしています。

海に流れ出したプラスチックのごみが紫外線や波の力で5ミリメートル以下の小さな破片になったものをマイクロプラスチックといいます。マイクロプラスチックには化学物質が吸着したりすることで、有害物質が含まれていることが少なくありません。これが魚に取り込まれ、その魚が人体に……、という心配もされています。



4 プラスチックに代わる製品の開発

プラスチックに代わる製品が開発されています。ビニールの買物袋を紙製に、プラスチックストローを木製やトウモロコシを原料としたバイオマスストローに。このほかにも、微生物によって水と二酸化炭素に分解される脱プラスチック素材の製品開発が進められています。

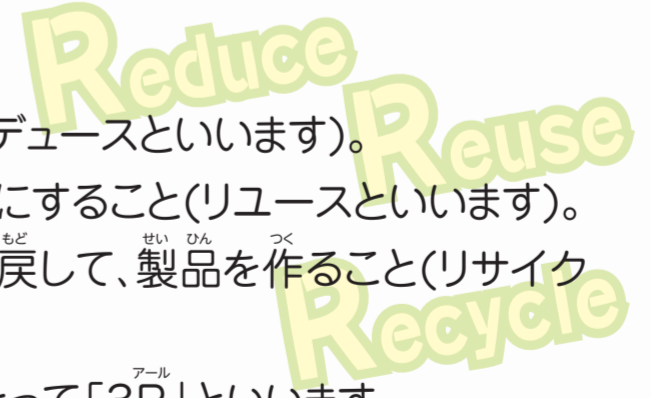


写真提供: 福井大麦倶楽部

5 ごみゼロにチャレンジ!!

ごみ問題を解決するために、資源をできるだけ節約し、ごみは回収して資源に戻すなどして、ごみの量をゼロに近づけることで、環境への影響を少なくすることが大切です。

- そのためには3つの方法があります。
- ごみの量を減らす工夫をすること(リデュースといいます)。
 - 一度使ったものを、何度でも使うようにすること(リユースといいます)。
 - 使い終わったものをもう一度資源に戻して、製品を作ること(リサイクルといいます)。
- この3つをまとめて、英語の頭文字をとって「3R」といいます。



ごみは、生活の中で誰もが出すものです。
きちんと分別し、適切に処理しましょう。
身の回りにあるプラスチックに目を向けてみましょう。

3 どうして海にプラスチックが

プラスチック製品は利用後、きちんと処理されず、環境中に流出してしまうことも少なくありません。ポイ捨てしたごみは、溝や川から最終的に海に行きつきます。

家庭から出るプラスチックごみは、各市町の方法に従って分別して出しましょう。ペットボトル、きれいに洗ったプラスチック容器、汚れが取れないプラスチック容器は、それぞれ異なった処理をし、再生資源として利用されています。



私たちにできることを
考えてみましょう。

- ① 必要でないものは買わない。
- ② マイバッグを持って買い物に行き、レジ袋をもらわない。
- ③ 詰め替え用品を使う。
- ④ びん、ペットボトルやアルミ缶は、お店の回収ボックスに入れる。
- ⑤ 資源ごみと燃えるごみを分けて出す。